






教材名	ゆっくり文字書きパット	紹介者	大樹寺小学校
 <p>①小麦粉粘土の入ったパット ②左手を置く位置の印 ③お手本 ④筆記用のはし ⑤消すときのローラー</p>	 <p>「折れ」の目印</p> <p>なぞり書きの練習。折れのポイントに、印をつける。</p>  <p>書いた文字をローラーで消す。</p>	 <p>なぞり書きの練習。折れのポイントに、印をつける。</p>  <p>なぞり書で字形が整ったら、手本を見て書く。</p>	
<p>教材の紹介</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・筆圧が弱く、なぞり書きのように一瞬で文字を書いてしまう児童に、「ゆっくり」「一面ずつ」書くことができるようにしたいと考えて制作した練習版である。 ・深さが2センチのトレイの中に小麦粉粘土がつめてある。 ・書くのに抵抗を感じ筆圧が要求されるため、字を書く速度もゆっくりになる。 ・「はね」・「とめ」・「はらい」の力加減や手首の使い方を意識することができる。 ・持ち方練習用の箸を使うことで鉛筆の持ち方も確認することができる。 ・古いシャープペンシルなど先端が細いものを使用して文字を書くと、点線風になりなぞり書きをさせることができる。 ・ローラーでこすることで、文字が消え、何度でも使用することができる。 		
<p>製作・入手方法等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・材料 積み重ねトレイ（幅15cm×奥行11cm×高さ2cm）、発砲スチロールの板（厚さ12mm、スポンジシート、段ボール、小麦粉粘土、箸、ローラー（すべて100円ショップで購入） ・粘土のトレイを固定し、表面が滑らかになるようにスポンジシートを張る。 ・左手でしっかり押さえられるようにするために、左手の位置に手形のマークをつける。 ・手に粘土が付かないように、小麦粉粘土を使用する。 		
<p>子どもの反応等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いつもは、一瞬で書いてしまう児童も粘土の抵抗を感じて「ゆっくり」書くことができた。「折れ」のところに○印（シャボン玉のストロー）、「はね」のところに、△印（三角鉛筆）、「はらい」に◇印（六角鉛筆）を付けることで「おれ」「はね」「はらい」に気を付けて書いていた。 ・乱雑に書いた文字を消してやり直しをさせるととても嫌がっていたが、ローラーを使うことが楽しかったのか、「ぼくが、消す」「もう1回、書く」と、書き直しに嫌がらずに取り組むことができた。粘土はトレイに入れ直すことが可能なので、練習の後には、ごほうびタイムとして「粘土遊び」の時間を取ることもでき楽しく活動することができた。 		

